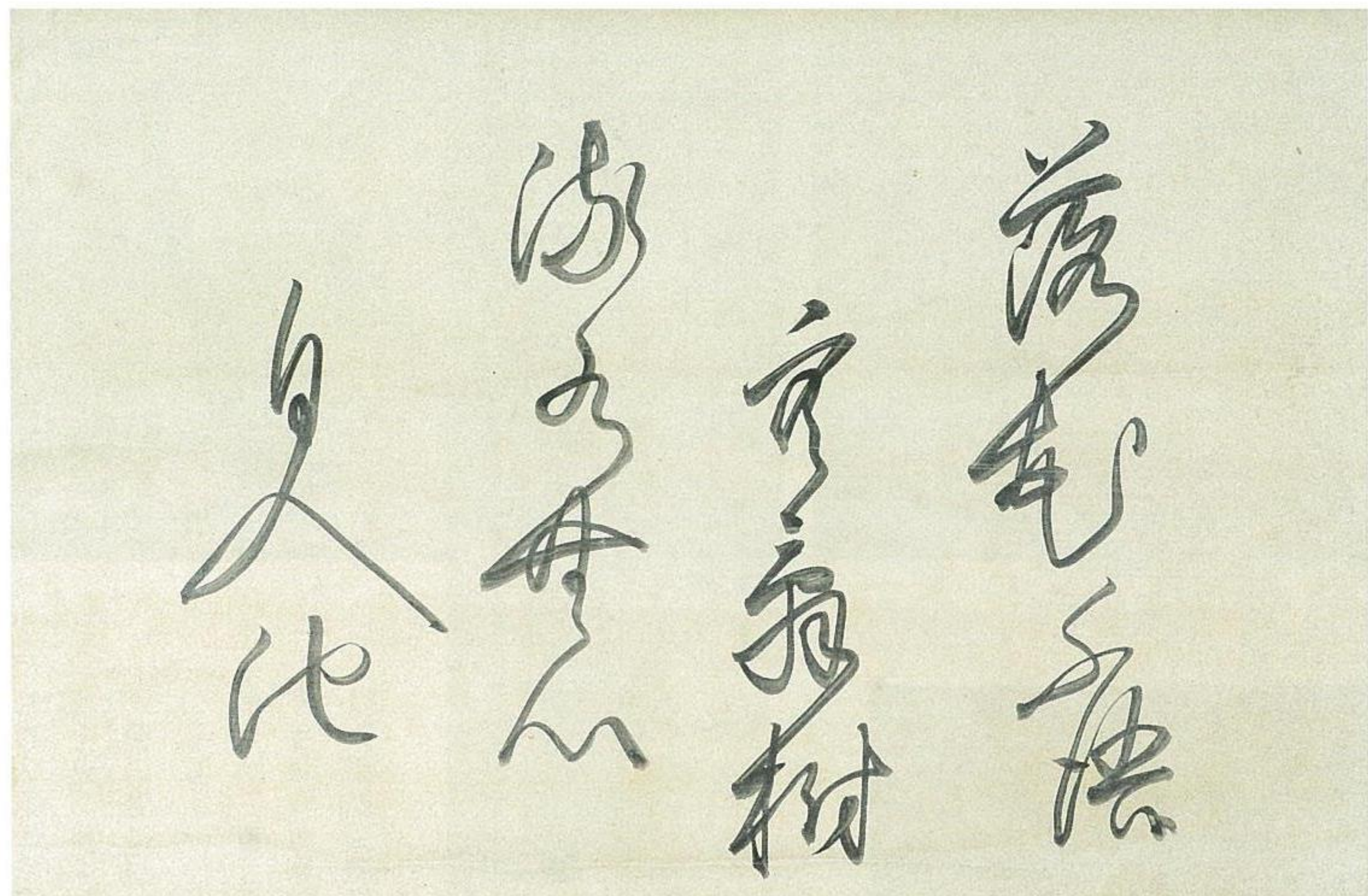


29、

後光明天皇宸翰

後光明天皇

(二六三三～一六五四) 江戸前期 紙本墨書 二四・六×三七・三cm  
重要文化財(永源寺文書) 永源寺蔵

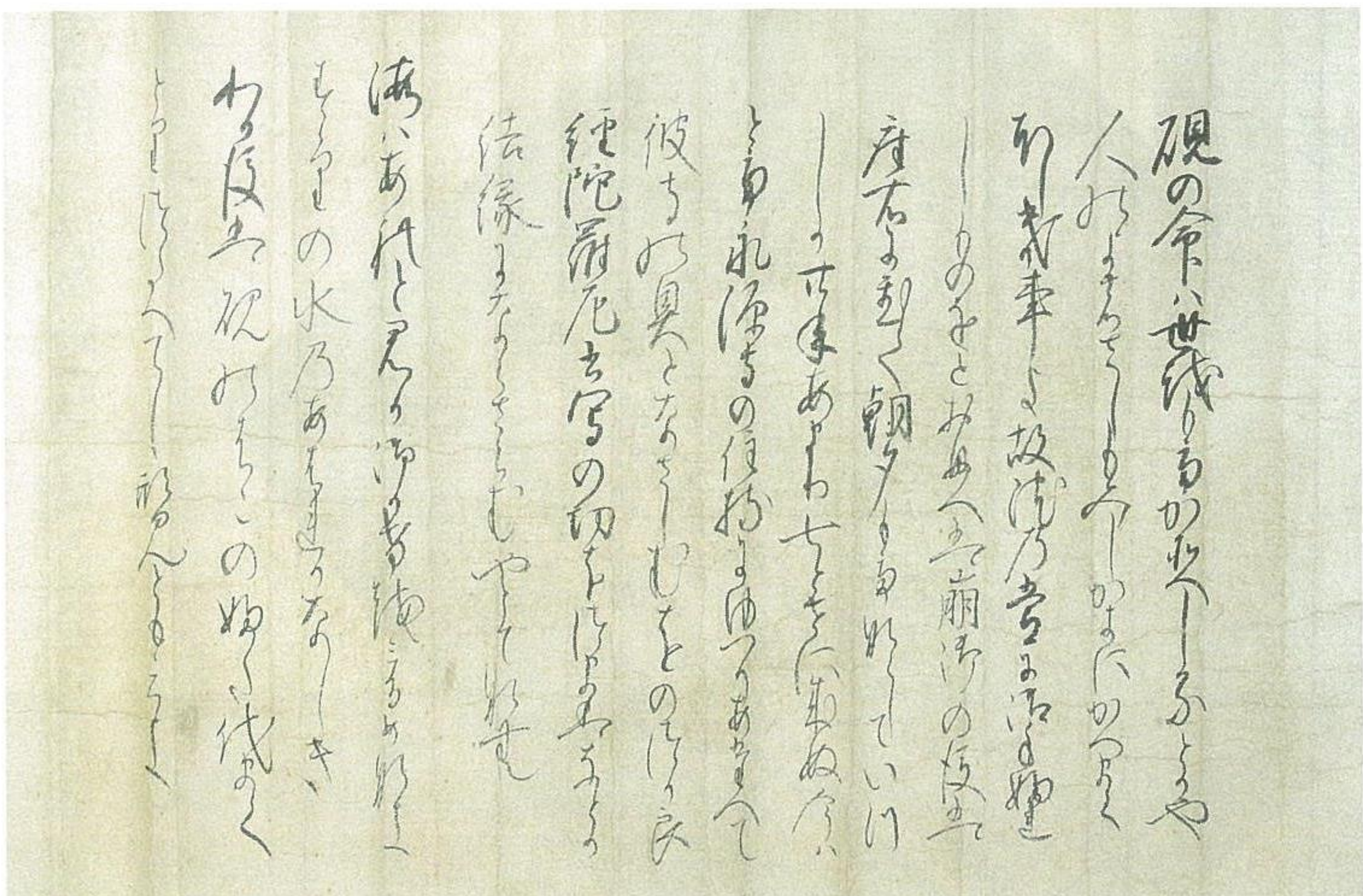


後光明天皇は、後水尾天皇の子で、明正天皇の後を継いで即位するも、弱冠二十二歳で早世した。  
本作は、外題に「後光明院宸翰十二歳御筆」の墨書がある。出典は、白居易の詩「過元家履信宅」で、『白氏文集』や『和漢朗詠集』春部に収められたものである。漢詩文の詩作を好んだ天皇らしい選句である。  
箱蓋裏書には、「興源開山和尚十六世孫翠菴弘軟禪師寄附」とあり、元興源寺の什物であったことが分かる。

30、

後水尾天皇御硯御製和歌写

江戸前期 紙本墨書 三三・二×四八・〇cm  
重要文化財(永源寺文書) 永源寺蔵



後水尾天皇が一絲文守へ硯を賜った際に添えられた和歌。この和歌は永源寺において繰り返し書写されたと伝わり、本作も写しと考えられる。  
『瑞石歴代雜記』に拠ると、寛永二十年(二六四三)十二月二日、後水尾院が岩倉具起(一絲文守の兄)を遣わし、「両朝所玩宝硯」と「宸詠和歌兩首」とを賜ったとある(『仏頂国師年譜』は寛永二十一年(一六四四)八月とする)。  
菊御紋が刺繍された表装で、外題に「後水尾院御硯御製和歌写」の墨書がある。